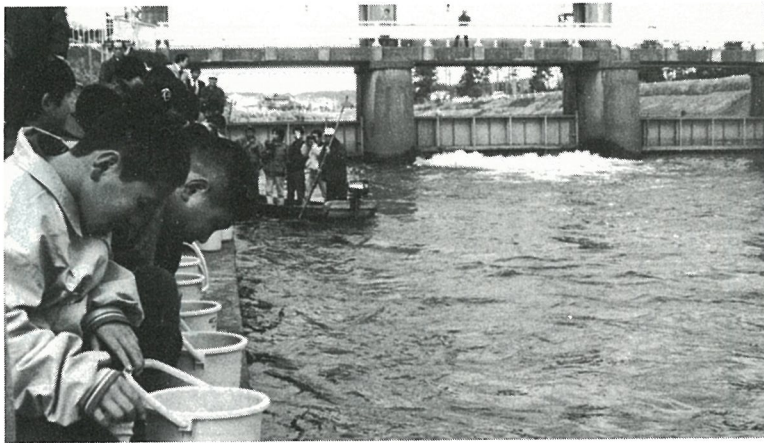


願いを込め放流

栗山川に40万匹のサケの稚魚

2月6日、寒風が吹く中、横芝堰で当町と横芝町の児童により

サケの稚魚の放流が行われました。児童たちは、水面を泳ぐサケの稚魚を、いつまでも目で眺めていました。



▶南条小の児童が願いを込めての放流

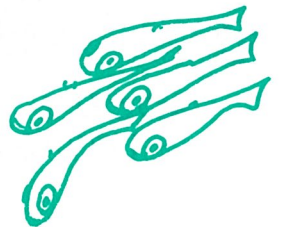
八匹健康優良児を表彰 (敬称略)

小学男子	1位	伊藤 貴一	(白 浜 6年)
"	3位	三枝 広隆	(東 陽 6年)
小学女子	1位	伊藤 直美	(白 浜 6年)
"	2位	藤城 伴子	(東 陽 6年)
中学男子	2位	青柳 靖之	(3 年)
"	3位	越川 真由美	(3 年)

当町からは、南条小5・6年生44人が参加しました。堰近くの広場で式典が行われ、県水産部技監を始め水産試験場々長から「放流したサケは、1万km泳いで3〜5年かけて、80cm〜1mの大きさになって帰ります。回帰率0.1%で100匹放流しても1匹しか

帰りません。ですから、帰ってくるようにお祈りしながら、と話しがありました。さっそく栗山川堰で、学校ごとに、小さなバケツにサケの稚魚を入れてもらい放流しました。放流を終わった南条小6年霞名穂さんは、「ドキドキしました。全部のサケが帰ってきてほしいです」と話してくれました。

横芝堰



「うちいた」の行事



100年以上続いている女おびしゃ

1月25日篠本二区公民館で100年以上続いている女おびしゃがありました。昔から行っている「うちいた」の行事は、まん中に板を敷き、出席者全員が各2人ずつ向き合って、お碗でお祝いのお酒を飲み、そのお碗を交換しながら安産の歌を歌い、安産祈願をしました。

○通信員 行方良子(篠本二区)

植木に大きな巣

五之神の疋田寛さん宅の植木畑に、すずめ蜂の巣が作られました。ウバメガシの木の1m50cm位の所に枝を包むように作られた、周囲1m50cm、高さ50cmの大きな巣です。玄関に飾り、訪ずれる人をびっくりさせています。

○通信員 大木秀子(五之神)



裏山から出てきた「タヌキ」



しばあたりを見回す タヌキ

宝米の山に野生の「たぬき」が写真が現われました。野生の「たぬき」が真昼間人前に姿を現わすことは、大変珍しいことです。皆さんも、野生の動物を見つけた場合は、あたたかく見守って下さいね。

○通信員 布施千秋(宝米)